

病れ如きは血統遺傳するは勿論なりと雖ども死魂所
 憑れ遺傳も亦少からざるなり是を以て世に遺傳病れ
 恐れある者は早く死魂解除の神法を受け第一は死者
 の苦惱を救ひ第二は已の病患を豫防すべきおと肝要
 なり仮令ひ遺傳病乃恐れなき者も祖先親族乃苦惱を
 救ふべきに神法なれば其法徳を願ふおと蓋子孫縁族
 たる者の道ならむのみ是即ち孝道なり忠恕なり
 然るに増子の身は一人なり世界の人は多数なり一人
 の身を以て多数の世人を救はんとばるおと其教言大
 にして其實徳行はれ難しと乃感なき能は此觀念一
 理ありと雖ども天眞の靈徳は無量なり不可思議なり
 決して憂ふるに足ざるなり世人若増子の道を信じ來

りて解除の神法を願ふ者多数にして一人の御祓を以
 て道を行ふこと能はざるに至らば其時必應じての神
 法を出し給ふ乃道あるおと毫も疑ふべきなし譬へば
 病患者に御祈念を施はが如き一人に一時間を要すと
 せば一日僅に十人乃至二十人なるべきに多数病患者
 あるときは一時に數十人代御祈念を施したるおとあ
 りしが如し今は多数の信者なきを憂る乃み増子の道
 たる彌入れば彌深し世人來りて妙味を悟らんのみ
 以上神として祭祀し尊敬を盡す所は造化の眞理國家乃實
 道にして生民須臾も離る可らざる乃大道なり之を約言ひ
 れば此神徳ありて此道あり此國あり此人あり此物あり此
 事あり此神徳乃外に徳あるを要せき此神徳一も減せるお

と能はき此道之を神道と云ひ此國之を神國と云ひ此人之を神孫と云ふ此の神徳を傳へたるは歴史之を神典と云ふ神典なる者は實に是れ造化國家の活歴史なり能く之を熟讀玩味するときは左乃五義あるを知る

第一大虚空歴史

是は天地未生乃時天津大御虚空乃高天原に坐しませる神の成りませる神其御名即靈徳を稱へ奉れば天之御中主神高皇産靈神神皇産靈神此神寂然不動に坐しませして無始なり無終なり不生なり不滅なり無邊なり無窮なり至虚なり至實なり至中なり至正なり至大なり至廣なり至天眞靈徳を有し給ひ生々滅々の造化顯象を成し給ふ

第二大宇宙歴史

是は太古の時大虚空の中に一物生じ混沌たるおと雞子の如く浮動はるること雲狀に如くなる物あり是有形顯象の初にて後其物磅礴して六合に彌滿したるが大宇宙無量世界の根本なり上下四方を宇と云ひ古往今來を宙と云ふ此物生じて初めて終始あり生滅あり虚實あり明暗あり邊あり量あり方あり位あり所謂劫初の名を得たるなり此徳固より大虚空眞靈性乃發顯なりと雖ども神魯岐神魯美命と稱へ奉るは此神なり之を大宇宙歴史と云ふ神か道か將物か神即道々即物々即神無形靈徳之を神と云ひ有形顯象之を物と云ひ隱見有法之を道と云ふ神道の妙義此れに在り人能く此妙義を知るや否や

第三 天地泉歴史

是は彼の混沌雲状の一物浮動の間其清輕なる物上りて
 天日と爲り重濁なる物下りて大地と爲り又月と爲る日
 月大地之を天地泉と云ふ是れ吾人生住する所の世界一
 區域乃名なり日月大地各本靈あり世に御形を現はし給
 ふ是れ日神を天照大御神月神を神速須佐之男神大地神
 を大國主神と稱す而して天日にも大地にも月界にも各
 數多の神ありて風火金水土を主る神あり海陸山川を司
 る神あり百穀草木を知る神あり或は政法農工軍事賞
 罰等の事を主る神あることを傳ふるは是れ天地泉の歴
 史なり

第四 地球世界歴史

是は國初の時伊邪那岐神伊邪那美神天の浮橋たる雲物
 に立たして天乃瓊矛たる神威力を以て青海原の洋々溟
 々たる中を潮許遠呂々々に畫き成し海陸分界の本を
 成し給ひてより漸次に國の八十國島は八十島と生み作
 り成し給ひ八百萬神青人草また萬物を生み給ひて此乃
 世界を開き給ひたるを初めとして神速須佐之男神天は
 壁立極廻坐て國質水土は良否を撰び定め適宜の神業を
 成し給ひ大國主神少彦名命相共に内外の國造を爲し給
 ひ或は天穗日命天翔り國翔り天下と見巡り荒振物を和
 し鎮め給ひ又は經津主神健御雷之男神天下を周流つゝ
 妖物等と征伐給へる等の事は廣く地球世界の關係なり
 之を地球世界歴史と云ふ

第五日 日本帝國歴史

是は伊邪那岐神伊邪那美神此乃皇國の地を以て國中の御柱と爲し八尋殿の皇居と定め給ひて住み給ひてより神々共に此地を世界に元首として重じ給ひ作り給へるは神速須佐之男神の我が御子の知らす國には浮き寶あらはよからせと宣り給ひて檜杉椴樟等の樹を生じ給ひ或は五十猛命天より樹種を持下りて韓地には殖えせとて皇國乃地に播殖え給ひ特に大國主神少彥名神相共に國作りを爲し給ひしにて知るべし終に皇孫邇々岐命日向代高千穂乃峯に天降り給ひてより永く皇都として住み給ひ國家統御れ御政事を執行し給ひ神武天皇中興の大業を成就し給ひ爾來今日に至り御歴代天皇御治世

坐しましたるの事實之を日本帝國歴史と云ふ以上五義の性質を具備したる所の神典歴史にて天下各國歴史ありと雖も如是きの神聖靈妙なる歴史あるおとし是れ實に天然の活歴史なり即ち惟神神の傳へし神典なり能く之を研究するときは彼れ哲學の理も此に在り宗教の義も此に在り脩身齊家治國平天下の道一も此に存せざるなし所謂放之則彌六合卷之則退藏於密其味無窮皆實學也とは是此乃謂ならんか増子無學無識の身を以て斯典の妙義を説き神にも人にも造化玄妙れ眞理を悟らしめんとするおと彌以て天地神明の實在と斯典の活歴史たるを證明ける者なり世人も知るが如く世間普通に歴史と稱するもたは其時代乃舊事を記録するよ止まる者にて天下萬

世に涉りて實權實徳ある者にはあらざるなり我が神典は
然らば其載れる所の神は永く天下國家を守護し給ふ者に
て神徳は猶官職に如し例へば天照大御神に御魂として齋
ぎ奉る所の御鏡の如きは天壤無窮の寶祚を守り給ふの靈
体なり神魯岐神魯美命乃天勳を以て天神社國神社と稱へ
奉りて神籬を天降し給ふは國家永遠の神憲なり出雲大社
に鎮り給ふ大國主神永く皇孫命の近守神としては已命の
御魂を八咫鏡に鎮めて大和國大三輪乃神奈備に坐さしめ
御子味鋌高日子根命の御魂をば葛木の鴨之神奈備に事代
主命の御魂とば宇奈提の神奈備に賀夜奈流美命の御魂を
は飛鳥に神奈備に坐さしめ給へり況んや出雲國造の流々
に仕へ奉る神賀吉詞なる者は皇統に万歳を祝ひ奉るの大

典にて蓋大國主神の御心を代表し給ふならんは神禮自利
と爲てとあるにて知るべきをや尙延喜式所載に神々に奏
し奉る祝詞を拜讀せば神徳の國家に於ける万古不易又活
動し給ふおと毫も疑ふべきなし故に我が國の神社なる者
は古實の紀念物同様の物みあらざるなり神若も無からん
か増子の靈異あるべきなし而して神々に善惡あるが故に
神にも造化に眞理を示さんと云ふ其神とするは神典あり
て神徳を記し神社ありて靈驗を現はし給へり然るに今や
造化乃氣運一變し國津神夜母津神として勞苦乃道に立ち
て世界經營乃事を主り給ひし神々本來天元より天降り給
ひし者なれば今より天元の本靈に歸入せしめ給ひ世界の
事は其神々の孫裔たる人々をして幽にも顯にも功勞と立

てしめ給はんと乃天意ありて特み増子を出だして其道を
舉行するとは増子靈異の神告なり而して其神々をば天津
神國津神として相並べ奉りて祭祀し皇靈皇族及び人々の
御靈も其敬神（敬天）忠孝愛國代者は共に合せて祭祀す
るの天意を表章するが天地山神社なりとす
増子靈異は神告如是くなるに幽界には神々之を疑ひ給ふ
あり妨害し給ふあり顯世には人々之を疑ひ之を誅り來り
て妨害を爲したるは前文已に述べたる次第なるに彼乃佛
徒暴行の當時明治廿六年六月中の事なり上田重義氏此道
の爲に各地に遊説する時待從藤波言忠殿九州巡視乃途次
宇佐宮御參拜あり宇佐の旅館に於て面謁を得て増子靈異
の事を申述べければ同殿大に感歎し給ひたる由にて左に

一書を増子に贈られ給へるは難有き次第なり

顯身通神界

奉勅 鎮西巡視待從正四位男爵藤波言忠在印

増子乃靈異たるや實に顯身を以て神界に通る者なり而
かも其道の至大至廣遠玄微妙なる乃御神慮を公然世上に
現はさせしめて空しく埋没せしめん必と速水の懈怠ならん
と自信し新に天地山神社として造化三神を始め奉り天神
地祇八百萬神を奉齋せんおとを政府に願したれども現
行法律に於て新規神社は詮議難相成とて官許を得るおと
能はざりしは遺憾の至りなり其れ然り神社乃上に於て奉
祭の道を盡すおと能はざるは亦如何んともける能はざる
を以て人々の精神の上にだも崇敬の道を盡はおともあれ

乃しと乃微衷を以て一書を著したるが御神號演義略なり
 今又本書を著すも其意に過ぎざるなり而して増子に神告
 天神地祇を祭るに於て必二社あるを要す其一社は天津神
 の鎮座に擬し其一社は國津神に鎮座に供し奉るべしとの
 おとなれば甲神社境内神社として從來當大村字天神林と
 申す處に御鎮座ありて近年癘滅の姿と爲り居りし天満神
 社を移轉建築せんとのことを政府に出願し其官許を得た
 るは明治三十一年十月三日なりとす是を以て天地山地に
 兩社あり曰く甲神社曰く天満神社是れなり政府許す所は
 此兩社にて我等が精神の上に崇敬する所の神は増子靈異
 此神告ありて現はれ給ひし所の天地神明なり而かも増子
 乃神靈なり故に私に稱して天地山増姫神社と云ふ

凡そ神祇を奉祭するに三種の別あり一は國家祭にて
 國家乃公祭なり例へば皇祖皇宗皇靈の神々を始め奉
 り臣民中の國家に功勞ある者を祭るの式法是れなり
 二は社會祭にて社會人民の歸依信向に依りて崇敬
 る者なり世の宗教なる者は多く此類とす三は神告祭
 にて神明人に憑りて其御心を現はし自神或は他神を
 祭らしめ給ふ者を云ふ其然り三種の差別ありと雖も
 も時として混はるることあるを常と例へば國家
 祭として祭る神を人民歸依信向して社會祭と爲り或
 は其初は社會祭なりしも終に國家の公祭と爲ること
 あり或は神明の靈告ありて現はれたるを政府之と尊
 崇して國家祭と爲り人民尊信して社會祭と爲る等是

なり要^スけるに造化^ク道^ノの上^ニに國家^カ社會^クの上^ニに功德^トある
神^カ人^トを祭祀^スする乃^チ道^{ナリ}今^ヤ造化^ク大神^ト御心^トとして
増子^ノの口^ヲを以^テ靈異^ノの神告^ヲを發^シ給^ヒ以^テ天地^ノ神明^ト
及^ビ國家^カ社會^クの功德^トある人^トを祭祀^スせしめ給^フ乃^チ天地^ノ
山^ノなれば是^レ神告^トなり後^カ來^セ世人^ノの漸^ク信^ズる所^ト
爲^ルに至^ラば社會^ノ祭^トも爲^ルべく又^タ彌^ク々^ク神德^ト現^ハる
に至^ラば終^ニに國家^ノの公祭^トと爲^ラんも難^カきおと無^カ
るべし我^レは只^ク其時^ニに至^ルを念願^スるのみ
抑^ク増子^ノの神德^トたる分^テ二^ト爲^ル其^レ一^トは道^ノの神^トとして天地^ノ
造化^ノの眞理^ヲを説^キ示^シ神人^トをして悟^コ道^ノ妙^ノ樂^ノの境界^ニに進^ニ入^ル
せしめんと神德^トなり其^レ一^トは池^ノの神^トとして其^レ初^ニ池^ノを沈^シ
みて池^ノの難^ヲを救^ヒ後^ニ浮^カび出^テ以^テ神^トと爲^リしは是^レ

即^チち世^ノの中^ノの苦^ク道^ニに身^トと沈^メて因難^{ナリ}し神^々人^々を救^フ
ひ上^ゲ以^テ天元^ニに歸^ス入^セしむるの神德^ヲを現^ハははの道^{ナリ}
今^チ天地^ノ山^ノ神社^トとして天神^ノ地祇^ヲを鎮祭^シ奉^ルは其^レ二^ニ德^ト乃^チ義^ト
を含有^スし天神^ノは與^レ樂^ノの道^ヲを以^テ道^ノの神^トと爲^リ德^ヲを賛^ト助^シ地祇^ト
は救難^ノ法^ヲを以^テ池^ノの神^トの德^ヲを成^ス達^シ給^フ乃^チ神理^ヲを現^ハ
は乃^チ神德^ト莊嚴^{ナリ}と必^ズ竟^ク與^レ樂^ノの道^ハ神魯^ノ岐^ノ神^トより出^デ
救難^ノの法^ハ神魯^ノ美^ノ神^トより出^ズるの造化^ノ道^{ナレ}ば之^レを天地^ノ
陰陽^ノの義^ニに依^リて道^ノの神^トと立^チ池^ノの神^トと爲^リ以^テ天神^ノ地
祇^ヲを鎮祭^シ天地^ノ山^ノ神社^トと名稱^スるなりとは増子^ノ靈異^ノの神
告^{ナリ}而^シて造化^ノ三^ノ大神^ヲを鎮祭^シ奉^ルは神社^ヲを以^テし
て神社^ヲを以^テせき天地^ノ山^ノ兩^ノ神社^トれ上^ニに存在^シて其^レ一^トは偏^シ
せき云^ハは兩^ノ神社^ヲを合稱^シて造化^ノ大神^ト御鎮座^トは申^スは

なり然れども増子の爲には更に靈異神徳の紀念碑を建築し其紀念碑を以て造化大神に御鎮座を擬し奉り増子に靈神は此れに鎮在にべしとは是亦神告の次第なり其れ然り天地山神社を以て増姫神社と稱はれども増子専有鎮在の神社にあらま其實造化大神の御心を現はし以て天地神明と鎮祭れるの靈場たるを知るべし
嗚呼増子無學無識の身を以て顯世界人類の決して知るべし能はざる幽冥神界の情狀を説き以て天地万物の生々たる所以ん古今世道乃變遷れる所以ん生死の道浮沈の理等と一々に之を明かにし又以て釋迦出で、佛教を興し耶蘇出でて救世を唱へたる乃因縁如何んを示し而も今や世界造化道大成し神人歸天の時として其道を神社的形象に現

はしたるが天地山神社なるときは是れ實に古今無比の靈徳神社と稱はべし天下の神社多しと雖も造化大神御自ら御心を現はし給ひて天神地祇八百萬神を統一的に奉齋したるの神社は一もあることなし其然り世界開闢以來未曾て無き所の此神社を建立するに至りしこと實に以て難有き次第なり然れば増子盡は所の改正の道漸く其効を奏し前に反對より立ち給ひし神々も御心晴れて此道の天眞より出るおとを悟り給ひ信じ給ひ皆共に天地山に鎮り給ひて増子れ道を御守護し給ふおと、なりしとは増子の神告なり加之釋迦も耶蘇も其道々の名僧智識の人々も與に天地山に鎮り給ふおと、なりしとは是亦増子の靈通なり釋迦の說法に一切衆生悉皆成佛の時ありと説きたるは増子

出世の今日より其境界に進入し又耶蘇の教語に天國近け
 り悔改めよとは増子出世の今日を指言せりとは實に増子
 靈異の神告なるときは佛法も耶蘇教も共に此増子の道と
 因縁離る可らざるを以て此乃統一的大道歸納的神社たる
 乃天地山に神々も人々も歸入鎮在はることゝ爲りしは亦
 敢て疑ふべきなし然れども神として未だ此道を悟らざる
 者無きにあらざらん人の靈心として此教を疑ふ者無きにあ
 らざれば其本靈に於て善惡二道の關係深きあり淺きあり又
 其性質に於て陰陽所成の差別清きあり濁るありて一切乃
 神一切乃人靈一時一齊み背向を同くは造化本然
 れ道理に於て無之きはまた論を俟ざるなり故に神々また
 人々の靈心は天地山に歸入し給ふおとゝなりしとは大勢

乃定まる所を云ふのみ道は活物なり神も人も活物なり進
 退も向背も死物的一定不變の者にあらざりて出づる者
 もあるべく出てゝ入る者もあるべし造化大神乃靈徳は一
 体三位なり生々滅々來々去々其生るも生るにあらざ
 其滅るも滅るにあらざりて其來るも來るにあらざりて其去
 るも去るにあらざりて神出鬼沒變化自在終に窮極ある可
 らざりて神人本來造化靈徳中の所成なり善化はるも道なり
 惡變はるも亦道なり今や天地山立ちて善化はる乃時到れ
 り衆生悉皆成佛も此より天國開くるも此より天地山
 道高し廣し深し遠し前文已に屢述るが如く釋迦も耶蘇も
 本來伊邪那美神乃御心として世乃中に生れ出で濟度救世
 の教を立て給ひし者なり今増子の出世は其伊邪那美神を

天元に呼び返し給ふの天使にて彼れも時なり此れも時なり
り必竟造化自然の活道なり時なる哉時は造化の活機にて
時を出はは天なり神なり能く時を知るは聖賢なり能く時
を守るは君子なり吾人は時を出すの神ならんか然らば時
を知るの聖賢ならんか然らば時を守るの君子ならんか未
だ能はば是れ未だ守るべき乃道を知ざればなり視よ世間
の道として教ふる所一にして足らば甲説き乙論じ所謂諸
宗諸門百家百説殆んど底止はる所を知らば此時に於て人
誰か迷ひ無らん迷ふて道を見らば知らざるが故に道を守
らば只眼前の私利我欲を見るのみなり或は少く道を知る
者ありとも造化本然の眞理を悟る者あらざるなり是に於
てか天真御心を現はし増子を以て道の神としては道を統

一的に示し池の神としては法を歸納的に正し給ひ大に世
界改進乃靈徳を發布し給ふおと是實に絶大無比の神徳な
る哉其れ然り此道の現るゝや現るゝの今日現るゝに非
世界れ進運に於て漸はる所ありて現れたる者なり之を佛
説に依りて云へば滅劫一變して増劫に向ふの時なり是れ
此を造化自然に神力と謂ふ凡そ世界の進化は世界乃自性
なり決して世界外他力を借るに非ざ故に神告は増子を以
て世界乃心なりと宣り給へり又増子は世界進運の向ふ所
を知らしむるの豫言者なりとも宣り給へり然れば増子は
時を出す乃神なり時を知るが故に聖賢とも云ふべく將又
吾人をして道を守る乃君子たらしめんと欲するの恩師な
り増子の神徳たる亦盛なる哉大なる哉

嗚呼天眞造化の眞理は皇國の國體として世界に現れ
たり人心天賦の性情は惟神は大道として皇國も永傳
せり此書説述は是れ増子の私心に非る亦速水の
私言に非る皇國固有の大道即ち造化自然の眞理なり
人能く之を讀み之を悟り行住坐臥思聽言動常に斯道
を遵守せば國家の隆盛世界の圓滿期して俟つべきな
り人は天下の神物なり已乃身と以て已乃身と爲す勿
れ已の心を以て已の心と爲す勿れ生るゝは國家の爲
なり死するも亦世界の爲なり生死二あり一に斯道あ
りて然るなり造化神徳ありて世界あり世界ありて國
家あり國家ありて民人あり民人無きときは國家なし
國家なきときは世界なし世界なきときは造化神徳なし

し故に人は國家の分子なり又是れ世界は分子なり仰
造化神徳乃分子なり故に一人の善惡は即ち國家の善
惡なり世界一般の善惡なり實に是れ造化神徳の善惡
なり人克く自愛せよ自重せよ顯幽苦樂れ道理一も此
道もあらざるなし天道に私なし公平なり眞實なり人
己の利害を以て造化斯道を是非はるゝと勿れ天命我
れに在り天心我れを捨てて人に吉凶禍福あるは人々
天命の異なるなり高さも人なり卑さも亦人なり各自
の天命を全くして死して天元に復命す天心之を何と
か謂はむ其愛其福期して俟つべきなり人此の觀念を
以て生死疑はる世界に立ち國家に盡し身を守り心を
備はむ之を神道の安心立命と云ふ人あり問ふて曰く

神道之を佛説に比せば大乘教とせんか小乗教と云は
 んか仰一乗教ならんかと答へて曰く大小乗兼攝の一
 乗教なり即ち開きて之を説けば盡十方無量國土万物
 同乘比大眞理にして約して之を説けば一人一家一國
 一物別乗の實教なり詩に云く鳶飛戾天魚躍于淵と天
 之を以て天と爲り地之を以て地と爲り万物も亦各之
 を以て万物と爲る所謂帝道唯一とは是なり亦之を惟
 神乃道と云ふ而して此乃道の國家人心の上存有し
 て天壤と共に無窮なるを皇國の國體と爲す所謂大和
 魂なる者はなり天下廣しと雖とも如是きの國體ある
 を見れば此道や儒に非老に非佛に非老固より西洋
 教も非老超然獨立無比特色の國體にして實に是れ

天然自然の大道なり大道なるが故も能く之を思へば
 儒も此内に在り老も此内に在り佛も西洋教も亦皆此
 内に在らざるなし活動進化して止むおとなきは是れ
 世界本然乃性情なり古往今來幾千万年國家治乱興
 亡あり民人に盛衰浮沈あり其間出づる所は政教一に
 して足らざるは世界自然の理勢なり故に政教乃外相
 を以て言へば正邪善惡あるが如しと雖ども能く深く
 其本心を觀察するときは國家民人乃安全幸福を保護
 し進達するに道に非ざるなし所謂先聖後聖其揆一な
 り豈亦眞個の邪惡なる者あらんや然れども如何なる
 善政明教も其時其國に適せざれば效用なし是れ古今
 の聖賢常に時に隨ふて政教を發止する所以なり今

や天運循環文明開化の世と爲り世界万国交通親和の時と爲れり政教隨て一大變化を見るに至るべきは固より論を俟ざるなり是れ天心特に増子を出して造化の道理を統一的に和合的に歸納的に示し給ふ所以なり人類本來同胞なり同祖異住乃神孫なり相親愛し相扶助すべきは世界本然の道理なれども天心造化の時として未だ其道理を實施するおと能はざりしに今より其道理を發行けるの時到来り語を換えて之を言へば皇國々々体代大道を世界の上下擴張するの時到来り苟も日本帝國に生れ神聖なる皇上を戴く者誰れか此れ皇道此の國体の光榮を世界に永世に發揮せしめて可ならんや斯道や造化唯一の眞理なり顯幽二世乃

大法なり人克く斯道を盡し以て各自の天命を全くせば此身此儘即ち神なり死して天真妙界に歸人するおと豈敢て疑ふべきあらひや是れ此を顯幽一理神人不二と稱ひ其れ然り斯道の要義左の如し

- 一 身も心も造化の神物たるを知るべき事
- 一 難有き世の中たるを知るべき事
- 一 恐るべき神の御前たるを知るべき事
- 一 樂みの中に怠慢乃生るを知るべき事
- 一 苦みの中に功德の成るを知るべき事
- 一 生るゝも死るも神乃道の中

如此て前に池底深く沈み給ひし増姫神の御魂は左の神法

に依り浮び出で天地山神社に鎮り給へり
時として浮くも時なり浮き給へ池に心は御社の中

速水曰此は天津大御祖大神の御心として池底に沈み
給へる増姫神に宣り給ふ者よて今や浮くべき時なり
其池を守り給ふ御心は御社の中より之を守り給はる

べしとれ事
苦みも時の心は御蔭なり浮くも時世の難有き道

速水曰苦みとは沈み給へることを云ふ前に沈みて苦
み給へるも其時の神徳なり今や浮かび出で、苦境を
離るゝの時となるも時世の機運にて難有き道なりと

の事
善惡を一手に持ちて守られよ昨日も御蔭今日も御蔭で

速水曰浮沈苦樂は善惡吉凶の象なり沈みては苦みの
道に立ち浮きては樂みの徳を有し永く其神徳に住し
て世の中を守り給へ必竟浮沈共に御蔭に非ざるなし
どの事

溜池は此の當村を救ふ爲廣くわたりて世の中の爲
速水曰溜池は御守護は當大村の人民を救ふ爲のみな
れども廣く其神徳を該當れば世に中れ爲なりとの
事なるが一理萬通乃真理即ち是なり事物の小なるを
以て小と爲べから老小善大善其道同じ小惡大惡其理
異ならず人豈慎まざる可けんや
難有し御蔭のふゆの難有し浮みたる御魂天地御山に
沈みし御魂今日の吉時に浮き給へ天地山御社に鎮まり給

へと五度も十度も申せ

速水日申せとは速水へ乃御示しにて即ち彼れ沈み給へる池邊に於て申告れ神事仕へ奉れとの事なり依りて此の神法を奉行せしは明治三十二年八月十日に曉天なりき

天地山神門銘を掲げて曰く
大虚之門 靈徳穆々 天地之山 神威赫々

増子れ口は大虚眞靈御心の門にて其道は乃ち天元に歸入するの門なり道は天門より出で人は道門より入る出入道あり是即ち門なり所謂玄之又玄衆妙之門穆々たる靈徳無邊なり無窮なり無量不可思議なり天地山は天神地祇八百万神及び世の中の聖賢忠孝愛

國人の神靈の鎮府にて是れ神徳世を照護し給ふの靈場なり人に善悪あり神法に賞罰あり赫々たる神威恐るべし仰ぐべし
夫れ穆々たる靈徳赫々たる神威の中には道理あり非道理あり順逆あり善悪あり生滅あり進退あり浮沈あり盛衰あり剛柔あり強弱あり大小あり高卑あり明暗あり清濁あり吉凶あり禍福あり泰否あり苦樂ある等一に之を定むること能はまど雖も深く思ひ審に察はるときは眞理明々精妙至盡なり大虚は物なくして物あり天地は物ありて物なし物の隠れたるを大虚と云ひ物の現れたるを天地と云ふ隠現出没活妙自在無始無終に暫くも止むとかなし之を生々の道と云ふ天

五十九丁 行表	六十丁 行表	六十一丁 行表	六十九丁 行表	七十二丁 行表	六十七丁 行表	六十六丁 行表	全二丁 行表	八十一丁 行表	八十七丁 行表	九十五丁 行表	九十八丁 行表	全一丁 行表
作日ハ昨日	徒佛ハ佛徒	ッゲハシゲ	誰だハ誰ぞ	須曳ハ須曳	性さハ性を	道たりハ道なり	天護ハ天壤	須曳ハ須曳	流々ハ統々			

明治三十二年九月十日印刷
 全 全 年 全 月 廿 五 日 發 行

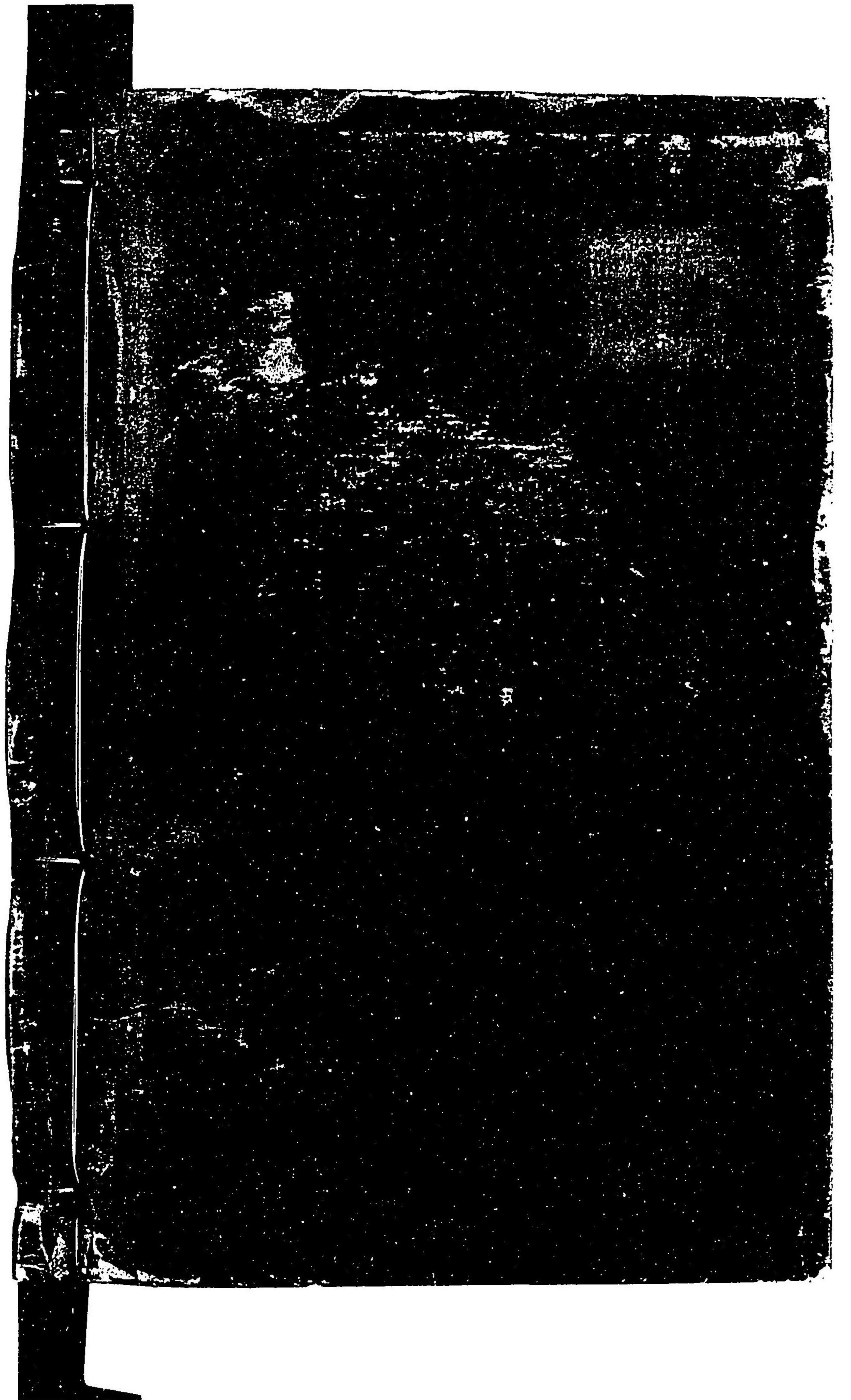
非 賣 品

省者兼發行者 友 枝 速 水

福岡縣豊前國築上郡八屋町
 大字大村千九百廿四番地

印刷人 郡 司 掛 保 忠

全縣全國全郡全町大字八屋
 千四百六拾二番地



特36

589

014414-000-1

特36-589

天地山神徳本記略

友枝 速水/著

M32

ABB-0784

